

サロンでのサステナビリティ

ジェンダーの平等に ついて学んでみよう!

サロンならではのアプローチで社会課題を知り、みんなが幸せを感じられるサステナブルな社会の実現を、美容師が日常生活や仕事を通じて行える**ジェンダーの平等**にやさしい行動のヒントを学びましょう。

『ジェンダー平等の課題』美しい地球とともに



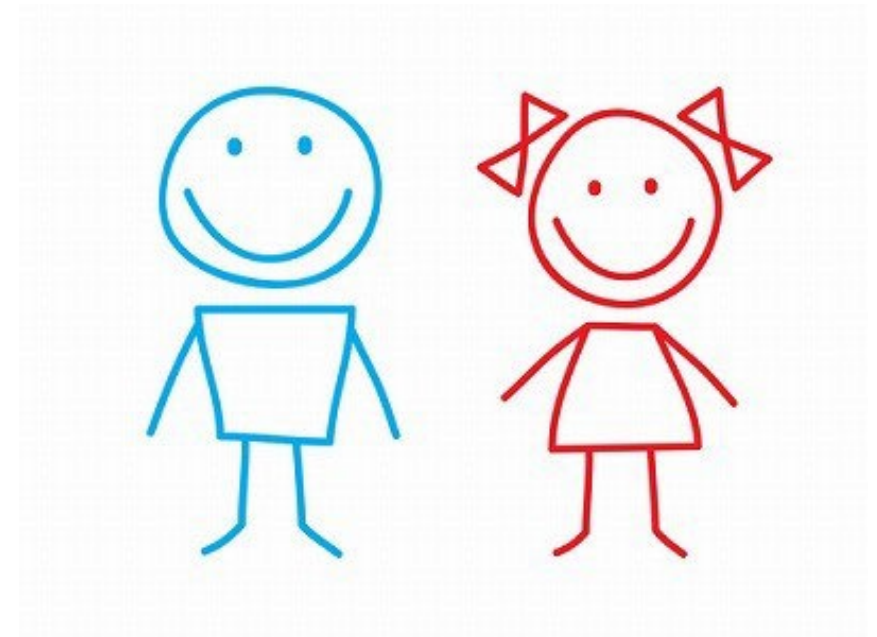
ジェンダーとは？

ジェンダーとは、日本語では「**社会的性別**」と訳されます。

たとえば、「男の子は青、女の子はピンク」とか、「お父さんは会社で働いて、お母さんは家で家事をする」というように、男女の違いによって、周りの人が無意識に抱くイメージや役割分担があります。

このように身体的な性別に対して、社会の中で「男性らしい」あるいは「女性らしい」とされている役割や行動、考え方や見た目などがあることを、**社会的性別 = ジェンダー**というのです。

- 身体的な性別…生物学的性別。主に体の違い
- ジェンダー…社会的性別。
「男性はこうあるべき」「女性はこうするべき」という社会の中でつくられたイメージや役割分担



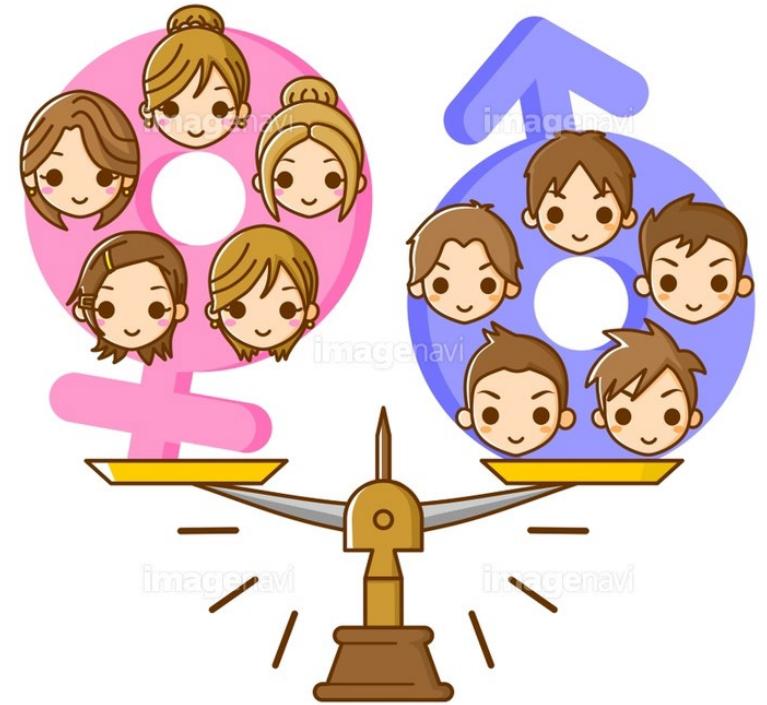
このように体が「男だから」「女だから」というだけで、社会的なイメージや役割分担を押しつけられて、好きなものや得意なことを制限されてしまうのはおかしいよね、という考え方を持つことが、ジェンダーによる偏見や差別、不平等をなくすことにつながっていくのです。

世界には、「女の子だから」というだけで、学校に通わせてもらえない女の子がいます。体が大人になる前に本人の意思とは関係なく結婚・妊娠・出産する、児童婚の習慣が残っている地域もあります。

「女性は家庭で家のことをするべき」という考え方が根強く、大人になっても家庭の外に出て仕事をするのが許されない女性も多くいます。また、世界的に見ても、家庭内暴力の被害者のほとんどは女性です。

さらに、先進国でも、男性のほうが女性より所得が多い、政治家や研究者に女性が少ないなど、女性が社会で活躍する機会が少ないと問題になっています。

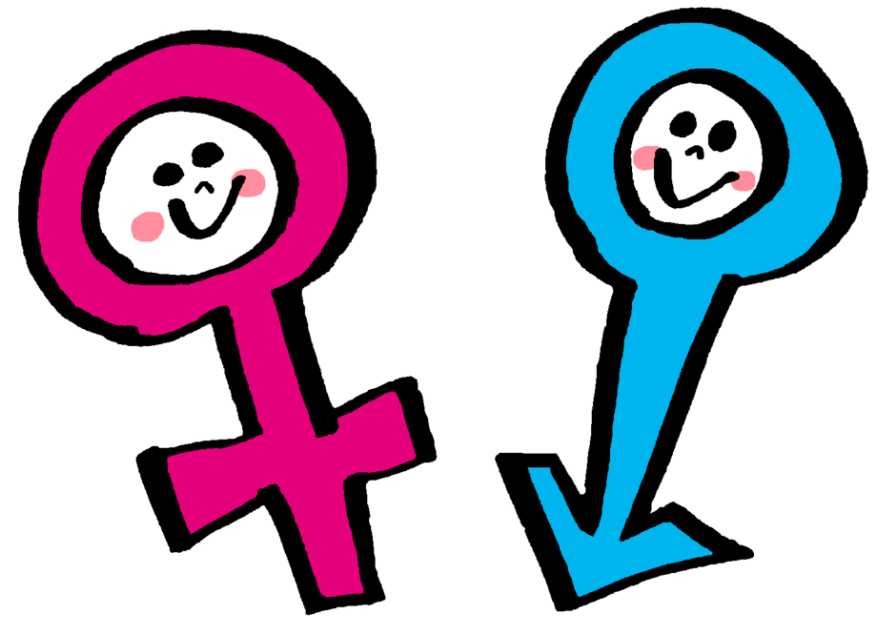
こうした課題を解決するために、この目標では、女性への差別や暴力をなくし、女性がのびのびと能力を伸ばすことができるような社会の仕組みづくりがターゲットになっています。



ジェンダー平等とは？

生まれつきの性別とは別に、ジェンダー＝社会的性別という見方が出てきたことで、性別に関する考え方も深まってきました。ここでは、最近よく聞くようになったジェンダーにまつわるキーワードについて詳しく見てみましょう。

1. ジェンダーギャップ
2. ジェンダーフリー
3. ジェンダーレス
4. LGBT



ジェンダーギャップとは？

ジェンダーギャップとは、男女の違いにより生まれる格差のことです。「男女格差」「ジェンダー不平等」などと言われることもあります。

ジェンダーギャップを表すデータとして有名なのが、世界経済フォーラム (World Economic Forum/WEF) という組織が毎年発表している「ジェンダーギャップ指数」です。この指数は、国ごとに経済、政治、教育、健康の4つの分野のデータと、総合的な指数が数字で示されます。指数が小さいほど男女の間に不平等があり、指数が大きいほど男女の格差がないという目安になります。

2022年の「ジェンダーギャップ指数」を見ると、男女格差の少ない国は1位アイスランド、2位フィンランド、3位ノルウェーとなっています。日本は健康や教育の分野では男女格差がほとんど見られないものの、全体では146か国中116位となりました。政治や経済の分野において女性の参画率が低いことが目立ち、格差の解消が求められています。

1位		アイスランド	
2		フィンランド	
3		ノルウェー	
4		ニュージーランド	
...			
10		ドイツ	G7首位
...			
19		フィリピン	アジア首位
...			
27		米 国	
...			
99		韓 国	
...			
102		中 国	
...			
106		ミャンマー	
...			
116		日 本	G7最下位
...			
146		アフガニスタン	全体最下位

ジェンダーフリーとは？

ジェンダーフリーとは、社会的な性別の違いによる役割分担にしばられることなく、一人ひとりが自分の能力を生かして、自由に行動したり生活したりできるようにしよう、という考え方のことです。社会的性別(ジェンダー)から、自由(フリー)になる、という意味があります。

「男性は家庭の外で働くもの」「女性は家で家事・育児に専念するもの」といった固定されたイメージは、一人ひとりが自分らしく生きていくことを制限してしまふことがあります。たとえば、以前の日本では「男子厨房 に入るべからず」という言い方をされることがありました。家庭の料理は 女性がするべきものという考え方が強かったのです。でも、男性でも料理 が好きだったり、得意だったりする人もいますよね。

「誰もが性別の違いにとらわれず、自分らしく生きることが出来る社会にしよう」というのが、ジェンダーフリーの考え方です。



ジェンダー平等とは？

ジェンダーレスとは、「男女の区別をなくす」「男女の境界がない」という意味があります。「社会的性別＝ジェンダー」に接尾辞の「～がない＝レス」がついた言葉です。

男女どちらでも着られる洋服を作るブランドが増えて、「ジェンダーレスファッション」が話題になっています。また、男性が化粧をしたり、男女の服装の違いではなく自分らしさにこだわった服装をしたりする「ジェンダーレス男子」も SNSを中心に注目されています。

先ほど紹介した「ジェンダーフリー」は、社会的な性別の差がテーマになっている考え方です。

それに対して、「ジェンダーレス」は自分自身の性の在り方がテーマになっています。つまり、自分の生まれつきの性や、男らしいとか女らしいという周囲の思い込みよりも、自分らしい服装やメイク、言動を大切にしたいという考え方を示していると言えます。



LGBTQ+ とは？

ジェンダーの問題を考える中で覚えておきたいのが、LGBTと呼ばれる人たちのことです。これまでは性の違いは、男性と女性に分けるのが一般的でした。しかし、体の性と心の性が違ったり、同性が恋愛対象になったりする人もいます。男女以外にも多様な性があることを一人ひとりが知り、社会全体で受け入れることが大切です。

LGBTとは、Lesbian(レズビアン)、Gay(ゲイ)、Bisexual(バイセクシュアル)、Transgender(トランスジェンダー)の頭文字をとった言葉です。

- レズビアン…女性同愛者。体は女性で恋愛対象も女性
- ゲイ…男性同愛者。体は男性で、恋愛対象も男性
- バイセクシュアル…両性愛者。男性も女性も恋愛対象
- トランスジェンダー…生まれたときの性別と、自分の認識している性別が異なる人



ジェンダーの平等に取り組んでみよう！

ジェンダーの問題とその解決のための取り組みがイメージできたでしょうか。大きなポイントは以下の3つです。

- ▶ 社会的な性別による違いが差別や格差といった不平等のもとになっていること
- ▶ ジェンダーの平等を達成するためには、差別や不平等に苦しんでいる女性を減らすことが大切なこと
- ▶ 男性も女性も含めたすべての人がいきいきと活躍できる社会を目指そうという動きが世界で広まっていること

そして、最も身近な家族の中でもジェンダーの平等を考えることはできます。

あなたの家族の中で、外で働いている人はいますか？

掃除や炊事、洗濯などの家事は、誰がどのくらいやっていますか？

子どもの面倒は、誰がどのくらい見えていますか？

自分の家族のことを調べてみると、ジェンダーギャップを見つけることがあるかもしれません。もし、誰かだけ負担がとてつもないとわかったら、仕事や家事、子育てを分担していくことでも、ジェンダーの平等を達成する一歩になります。ぜひ家族で話し合ってみましょう。

